
103. 急性硬膜下血腫に対する穿頭血腫ドレナージ術の有用性

研究の概要

2010年1月以降に当院にて急性硬膜下血腫に対して穿頭血腫除去術を行った患者様と開頭血腫除去術を行った患者様の経過を比較する研究です。

研究の目的と方法

私たちは急性硬膜下血腫の患者様の来院時の状態、術後経過についてデータを集め、開頭血腫除去術に対する穿頭血腫除去術の非劣性を検証します。それにより急性硬膜下血腫に対しての手術の選択肢について提言します。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究に扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆さまの貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いいたします。本研究にご自身のデータを研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

急性硬膜下血腫と診断された患者様の年齢・性別・入院時の意識の状態・画像所見・入院期間・退院時の意識状態と全身状態について、既存のカルテ情報から調査します。患者様の個人情報につきましては記載いたしません。

調査期間

研究対象期間：平成22年1月1日～令和2年4月30日まで

研究実施期間：倫理委員会承認後～令和2年10月31日まで

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは、集団として分析し、学会や論文で発表します。個人が特定されることはありません。

研究代表者

国立病院機構熊本医療センター 脳神経外科 宮崎愛里

当院における研究責任者

国立病院機構熊本医療センター 脳神経外科 宮崎愛里

問い合わせ先

国立病院機構熊本医療センター 脳神経外科 宮崎愛里

TEL: 096-353-6501